

# 第55回 全国陸上貨物運送事業労働災害防止大会

11月7日(木) 滋賀県で盛大に開催



## 第55回全国陸上貨物運送事業労働災害防止大会

当協会主催、厚生労働省、国土交通省、警察庁、滋賀県及び大津市の後援による「第55回全国陸上貨物運送事業労働災害防止大会」が、11月7日(木)、滋賀県大津市の大津市民会館において、全国各地から800名を超える会員、関係者の参加を得て、盛大に開催されました。

今大会は、昨年の死亡者数が前年同期に比べ増加していること、また、昨年度からスタートした「労働災害防止5か年計画」の目標達成に向けて、なお一層積極的な労働災害防止活動を展開していくことを決意する大会となりました。

### I 大会式典

大会は、国歌斉唱、労働災害等により亡くなられた方々への黙祷に続き、開催地の滋賀

県支部田中亨支部長から「滋賀県大津の地へお越しくださいます。誠にありがとうございます。私からは滋賀県の観光スポットをご紹介します。ぜひとも足を延ばしていただきたいと思います。」と琵琶湖、彦根城、信楽町をはじめ多様な名所を紹介された開会の辞で始まりま



開会の辞  
田中亨滋賀県支部長

した。

次いで、渡邊健二会長が挨拶を述べ（要旨を3頁に掲載）、厚生労働大臣（代読：厚生労働省労働基準局村山誠安全衛生部長）、国土交通大臣（代読：国土交通省近畿運輸局八木一夫局長）、警察庁長官（代読：警察庁近畿管区警察局根木桂三広域調整部長）、三日月大造滋賀県知事の各来賓からご祝辞をいただきました。

次に行われた表彰では、安全衛生表彰の事業場・団体表彰（43事業場・3団体）、個人表彰（31名）、永年勤続表彰（3名）、優良フォークリフト等運転者表彰（161名）が行われ、



安全衛生表彰

渡邊会長から代表の方々に賞状と記念品が贈られました。続いて、安全衛生標語の優秀作品紹介、顕彰及び入賞者への表彰が行われました（受賞者名簿は4～5頁に掲載。大会当日撮影の各賞の受賞者記念写真を6頁に掲載。）

次いで、「第34回全国フォークリフト運転競技大会」の開催報告を行い、大会当日出席された入賞者の方々を紹介し、また、永年にわたり競技大会の会場を提供いただき、多大のご協力を賜った埼玉県支部並びに埼玉県トラッ

ク協会へ感謝状が贈られました。



全国フォークリフト運転競技大会開催報告  
右から一般の部優勝塩澤純様、同準優勝青木隆一様、同第4位圓城規之様、女性の部優勝池田由香様、同準優勝奥山佳奈様

また、本年度「厚生労働大臣 功績賞」を吉野雅山前副会長・前愛知県支部長が受賞され、「緑十字賞」を清水則明福井県支部長及び楠木寿嗣香川県支部長が受賞されたことが紹介されました。

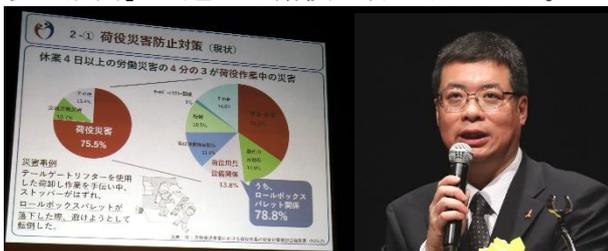


大会宣言  
中原毅大阪府支部長

大会式典の最後に、大阪府支部中原毅支部長から大会宣言(案) (7頁に掲載)が読み上げられ、満場一致で採択されました。

## II 講演

講演として、厚生労働省労働基準局村山誠安全衛生部長による「最近の労働安全衛生行政の動向」と題した講演が行われました。



厚生労働省労働基準局村山誠安全衛生部長の講演

## III 事例発表

事例発表は、滋賀県支部所属のセンコー株式会社京滋主管支店業務改善担当課長芳賀芳朋氏から、「わが社の安全活動～風土改革～」と題して行われました(要旨を7～8頁に掲載)。



センコー株式会社京滋主管支店  
業務改善担当課長芳賀芳朋氏の事例発表

## IV 特別講演

特別講演として、三千院門跡門主堀澤祖門師から「枠を破る」と題し、「自分の利益でなく、他人のために尽くすことが大事であり、世の中への貢献は人間として大切な仕事。この気持ちがあれば、お客を大事にした運転となる。利益を上げることだけを強いては脱落し、損害を被るだけとなる。」とのご講演をいただきました。



三千院門跡門主堀澤祖門師の特別講演

## 閉会の辞

令和2年11月12日開催の次回大会開催地支部、広島県支部大上正治副支部長から「来年の第56回大会は広島県での開催となります。広島



閉会の辞  
大上正治広島県副支部長

県は、世界遺産に登録されております原爆ドームや厳島神社をはじめ、多島美で風光明媚な瀬戸内海やなだらかで美しい山容の中国山地など多彩な魅力にあふれております。また、食文化ではお好み焼き、もみじ饅頭、瀬戸の小魚、清酒が全国的に有名でございます。この機会に広島県の魅力をご堪能いただければ幸いです。広島県支部一同心からお待ちしております。」という閉会の辞が述べられ、来年の再会を期して今大会が締めくくられました。

# 第 55 回 全国陸上貨物運送事業労働災害防止大会

## 渡邊健二会長挨拶 (要旨)

本日の大会には、全国各地から大変多くの皆様にお集まりいただき、お陰様でこのように盛大に本大会を開催できました。心から厚く御礼申し上げます。

さて、陸運業における労働災害は、会員事業場のたゆまぬご努力により、長期的には、減少傾向にあります。最近では、横ばいないし増加傾向にあることが懸念されます。

死亡災害については、昨年は 102 人となり対前年比 26% の大幅減少となりましたが、今年に入り、9 月末では対前年同期比 5.3% 増となり、増加に転じております。

昨年は、墜落・転落、はさまれ巻き込まれ等の荷役災害が大幅に減少しましたが、今年に入り、墜落・転落等の荷役災害が増加していることによるものと考えております。

一方、死傷災害については、平成 28 年以降、増加傾向が続いておりましたが、今年に入り、減少に転じ、9 月末では対前年同期比 2.7% の減少となっております。

陸災防では、昨年度からスタートした「労働災害防止 5 か年計画」における計画目標の達成に向けて、①「荷役 5 大災害防止対策」の徹底及びフォークリフト荷役技能検定制度の活用等による荷役災害の防止、②荷主等における荷役災害防止活動の強化に向けた事業の推進、③交通労働災害防止対策の推進、④定期健康診断の完全実施と事後措置の徹底を重点に、本部・支部が一体となって、より一層の労働災害防止に積極的に取り組んでまいります。

とりわけ、今年度は、陸運業の労働者の被災

場所の多くを占めております荷主等の構内における荷役災害を防止するため、荷主等との一層の連携を図り、荷主等における荷役災害防止活動の強化に向けた事業を新たに推進しております。



また、陸運業においては、高齢化、長時間労働等の影響により、脳・心臓疾患、過労死等の労災認定件数が、依然として全業種の中で突出して多く、健康診断の有所見率も 62.4% と高水準で推移しており、労働者の健康確保も大きな課題となっております。

陸運業は、厳しい経営環境のもとにありますが、我が国の経済活動と国民生活を支える物流の中核であります。このような機能を果たしていくうえで、そこで働く人々の安全と健康を確保していくこと、そして昨今の「働き方改革」で求められている長時間労働の抑制など労働環境を改善していくことは事業者の責務であり、何よりも重要なことでもあります。

本日、大会に御参加の皆様方におかれましては、本大会を契機に、これまで以上に充実した実効ある労働災害防止活動を展開されますようお願い申し上げます。

本日、大会に御参加の皆様方におかれましては、本大会を契機に、これまで以上に充実した実効ある労働災害防止活動を展開されますようお願い申し上げます。

# 第55回 全国陸上貨物運送事業労働災害防止大会 安全衛生表彰等の受賞者の方々

(敬称略)

## 1 安全衛生表彰

### 事業場・団体表彰

#### 優良賞 (14 事業場)

北海道 西尾運送有限会社  
茨城県 白鳥輸送株式会社  
群馬県 大島運輸株式会社  
埼玉県 森田運送株式会社  
千葉県 有限会社山口運送  
岐阜県 揖斐川工業運輸株式会社本社営業所  
愛知県 東郷運輸株式会社  
愛知県 名豊運輸株式会社  
滋賀県 湖南運輸株式会社  
京都府 株式会社 S. T. P. サービス  
奈良県 大和陸運株式会社  
奈良県 大和商運株式会社  
奈良県 有限会社ウエストライン  
熊本県 中山砂利有限会社

#### 進歩賞 (29 事業場)

福島県 鈴木運輸株式会社  
茨城県 有限会社奥久慈運輸  
群馬県 群酒輸送株式会社  
新潟県 エヌ・ユー総合物流株式会社  
新潟県 新潟市場運送株式会社  
愛知県 岡大物流株式会社  
愛知県 オカケン運輸有限会社  
愛知県 アイチ梱包運輸株式会社  
滋賀県 日通トランスポート株式会社滋賀支店  
奈良県 西川運輸倉庫株式会社  
奈良県 株式会社運  
鳥取県 日本通運株式会社鳥取支店倉吉物流センター  
鳥取県 有限会社竹中建材  
島根県 有限会社大畑商店  
島根県 有限会社梨田運送  
山口県 吉本運輸株式会社  
山口県 周防運輸株式会社本社営業所  
徳島県 有限会社阿北運送  
徳島県 有限会社半田運送  
香川県 三溪運送  
香川県 五色サービス運輸有限会社  
愛媛県 四国西濃運輸株式会社松山支店  
愛媛県 伊予商運株式会社松山支店  
高知県 かしま工業株式会社  
福岡県 日正運輸株式会社北九州営業所

福岡県 丸光運輸株式会社  
熊本県 株式会社東南企業  
大分県 有限会社麻生自動車整備工場  
宮崎県 矢野運輸株式会社

#### 団体賞 (3 団体)

埼玉県 陸災防埼玉県支部いるまの分会  
千葉県 陸災防千葉県支部君津分会  
東京都 陸災防東京都支部会練馬支部

### 個人表彰

#### 功労賞 (7 名)

栃木県 馬場登志夫 (株式会社折一)  
埼玉県 尾野 嘉昭 (カネオ興運株式会社)  
千葉県 中村 浩 (旭運輸株式会社)  
千葉県 塙 昭男 (海匠トラック事業協同組合)  
神奈川県 八巻 憲男 (小山田運輸株式会社)  
山梨県 塩津 和久 (中央運輸有限会社)  
静岡県 高橋 満敬 (浜松定温輸送株式会社)

#### 功績賞 (24 名)

北海道 野田 光春  
青森県 川村 義明 (株式会社川村土木)  
岩手県 高田 勲 (陸災防岩手県支部)  
宮城県 伊藤 憲  
宮城県 針生 昭雄  
宮城県 吉村 正憲  
福島県 影山 良明 (陸災防福島県支部県中分会)  
福島県 石澤 武男 (陸災防福島県支部)  
栃木県 石塚 安民 (株式会社北関東運輸)  
埼玉県 川島 満 (株式会社啓和運輸)  
埼玉県 児玉 啓 (有限会社ティ・エス・アール運輸倉庫)  
千葉県 三上 光彦 (有限会社桜運輸)  
千葉県 石塚 誠一 (石塚運送有限会社)  
神奈川県 山野 英二 (山神運輸工業株式会社)  
神奈川県 岩橋 雅一 (株式会社イワハシエキスプレス)  
神奈川県 高橋 英樹 (サガミ急送株式会社)  
静岡県 白鳥 正人 (安倍運輸株式会社)  
静岡県 小池 孝義 (中部陸運株式会社)  
大阪府 市川 寛治 (いちかわ倉庫株式会社)  
広島県 山本 郁男 (能美運輸株式会社)

広島県 中 嘉久(郡山運輸株式会社)  
 広島県 熊野 弘幸(福山ロジスティクス株式会社)  
 福岡県 霜原 達雄(有限会社大進商運)  
 福岡県 藤吉 栄樹(有限会社九州環境美装センター)

## 2 永年勤続表彰

### 10年勤続(3名)

千葉県 今井 麻貴  
 千葉県 川上慎一郎  
 千葉県 中野 正貴

## 3 優良フォークリフト等運転者表彰(161名)(支部別)

北海道	片柳 友孝	関川 真人	中島 大志	藤井 良紀	広島県	村上 友彦
斎藤 正寿	佐藤 秀行	富山県	小久保道彦	滋賀県	原田 毅	柳原勇一郎
青森県	小貫 宏二	柞山 哉	植田 一之	吉田 優佑	大川 進一	道添 順治
川浪 昭彦	群馬県	高嶋 務	静岡県	京都府	秋光 竜造	井口 大生
飯田 康政	平尾 隆樹	松島 誠一	寺田 浩嗣	山本 琢生	山口県	野口 正吉
榎本 恭太	吉川 久	早川 勉	和久田伸吾	寺本 雅広	河口 泰弘	佐賀県
大関 光雄	坂口 宏	桑山 哲也	梨本 謙二	谷垣 和明	平井 義夫	黒岩 重敏
岩手県	埼玉県	石川県	加仲 正義	大阪府	徳島県	野中 聖也
高橋 章次	内田 昌護	新田 裕之	上野 勝教	竹本 弘	日浦 裕富	永吉 大介
北條 智克	阿部 哲哉	山田 拓実	古川 博揮	喜山 信宏	竹内 史郎	熊本県
千田 正志	國方 美絵	小坂 桂造	渡會 剛弘	大山 靖和	鎌田 君英	石井 剛
千田 亨	千葉県	長戸 幸紀	愛知県	勢田 一郎	香川県	星子 高範
工藤 博之	近藤 隆彦	田中 悟	岡本 正紀	樫村 光孝	宮西 弘明	高木健一郎
宮城県	中野 壯	柚木 博志	細井 孝二	山口 裕司	石川 英司	竹下 立浩
小野 恭兵	田邊 拓也	中西 忠	徳山 健	奈良県	川井 匠治	篠原 幹保
小山 竜	吉成 尚史	福井県	奥野 圭	石井 英人	鶴見 太郎	大分県
紺野 洋樹	津根 久人	内田 正吾	今井 政孝	井上 隆司	愛媛県	二宮 勝則
山形県	大西 学	山梨県	浦 政伸	小倉 光紀	川村 峰勸	佐藤 貴史
中川 祥一	森田 浩行	澤邊 潤	加藤 清治	角井 憲一	菊池 保人	宮崎県
廣谷 宏一	行木 清二	高野 昭仁	原田 茂明	鳥取県	石川 浩司	田中 邦彦
山口 洋平	神奈川県	長野県	白川 良寛	福田 健二	高橋 正訓	安藤 繁司
芦埜 剛士	古川 文夫	守屋 和広	佐藤 直樹	鷺見比呂志	加藤 直哉	中村 修
福島県	一杉 隆俊	堀内 浩幸	石原田裕介	島根県	平岡 純	鹿児島県
本山 智広	吉川 淳一	岐阜県	浅井 一臣	藤原 正宣	野本 貴洋	上村 広幸
佐藤 和也	神山 武	川上 賢志	三重県	山口 幹夫	高知県	富山 智弘
芳賀 浩	橋本 秀男	吉田 浩	小林 智之	岡山県	日之裏 博	中田 光則
木田 和行	平井 啓資	馬淵 敏	大西 繁道	大饗 知広	瀬尾 尚人	若松 孝一
安部 敏満	浅生 一成	渡辺 信二	川出 佳史	河田 敦典	福岡県	
栃木県	新潟県	宮本 義人	水谷 保彦	金高 茂夫	山村 立	

# 第 55 回 全国陸上貨物運送事業労働災害防止大会 安全衛生表彰等受賞者の方々

(大会当日に撮影)



優良賞



進歩賞



功労賞



功績賞



団体賞



永年勤続表彰



優良フォークリフト運転者表彰



安全衛生標語優秀作品表彰

# 第 55 回 全国陸上貨物運送事業労働災害防止大会 大会宣言

陸運業は、我が国の経済活動と国民生活を支える物流の中核として重要な役割を担っている。陸運業がその役割を果たしていく上で、そこで働く人々の安全と健康を確保していくことは極めて重要な課題である。

陸運業界は、慢性的な人手不足、高齢化問題などの諸課題を抱え、依然として厳しい経営環境に置かれているが、我々は、人命尊重の理念の下に、労働災害の根絶に向け積極的に取り組むとともに、健康で安心して働くことができる職場環境を実現し、企業並びに業界の発展に寄与するものとする。

このため、昨年度からスタートした「陸上貨物運送事業労働災害防止計画」の目標達成に向けて、次の取組を重点に、本部、支部、会員事業場が一体となってその推進を図ることをここに誓う。

- 一 安全衛生水準向上に向けた活動を一層推進するとともに、荷役運搬作業における「荷役 5 大災害防止対策」の徹底並びにフォークリフト荷役技能検定制度の活用及びフォークリフト運転技能講習等の適正な実施を通じて労働災害の防止に積極的に取り組む
- 一 荷役災害の最重点課題である荷主等の構内における安全確保対策のため、荷主等との一層の連携を図り、荷主等における荷役災害防止活動の強化に向けた事業を推進する
- 一 死亡災害の半数を占める交通労働災害防止対策の一層の推進を図る
- 一 健康障害防止のため、定期健康診断の完全実施による事後措置の徹底、メンタルヘルス対策等の周知を図る

以上、宣言する。

令和元年 11 月 7 日

第 55 回全国陸上貨物運送事業労働災害防止大会

## 事例発表 (要旨)

### 「わが社の安全活動～風土改革～」

センコー株式会社京滋主管支店 業務改善担当 課長 芳賀芳朋 氏

はじめに

センコー株式会社はセンコーグループホールディングス株式会社の中核事業会社である物流会社です。ルーツは大正 5 年に発足した海運業者の富田商会で、日窒コンツェルンの一員として輸送部門を担ってましたが、財閥解体の発令により一旦解散しました。昭和 21 年大阪府大阪市北区宗是町 1 番地に扇興運輸商事株式会社を設立、その後、商号を扇興運輸株式会社へ変更、昭和 48 年社名をセンコー株式会社に変更、今年で創立 73 年になります。

近年の動向として、物を運ぶだけの運輸業から『流通情報企業』という看板を揚げ、量

販・小売等の流通ロジスティクス事業、モーダルシフトに対応した内航海運事業や通運事業、荷主企業の海外生産に対応した国際物流事業、3PL 事業者として顧客によるアウトソーシングの要請に応える物流コンサルティング事業を積極的に展開し、お客様に最適な物流ソリューションのご提案を致しております。

#### 安全衛生管理体制について

##### ●安全理念

『人間尊重』と『すべてに優先する安全』の精神のもと、『安全ゼロ災職場の確保』を実現する。

(1) 組織

- ① 全社総括安全衛生管理者の配置（本社）
- ② 総括安全衛生管理者、安全品質環境担当者の配置（部支店）
- ③ 産業医の配置（全社・部支店）

(2) 目的

労働災害の防止及び健康の維持増進、快適な職場づくりの推進

(3) 安全衛生委員会の開催

- ① 全社安全衛生委員会（年 2 回）
- ② 支店安全衛生委員会（月 1 回）
- ③ 営業所内安全衛生委員会（月 1 回）
- ④ 営業所安全会議（月 1 回）

(4) 安全マネジメントシステムの推進

法令に則した『安全実力度評価（内部監査）』を毎年実施し、改善進捗状況を改善ランキング表にまとめ、部店長やグループ会社の社長に定期的に配信しています。具体的な結果を地域のマネジメントにつなげることで課題解決の PDCA サイクルにより、安全を担保しております。

**安全風土の改革**

(1) 経緯・背景

当社京滋主管支店では、平成 28 年に車両事故、労働災害が多発しました。車両事故は道路上での交通事故です。KY・HHK 活動、添乗指導、送り出し教育、訓練研修会等を通じて、管理監督者及び従業員の安全意識の向上を図る取組を実施していましたが、コミュニケーション不足から本来の目的から逸脱した活動になり、本来の安全ルールの目的を伝える指導をすることが課題でした。

また、事故発生者の 70%以上が業務経験 1～3 年未満の従業員であり、経験を補完する指導と教育の実施が急務でした。

(2) コミュニケーションの活性化による全員参加の風土づくり

- ① 訓練・研修の体系化とルール化
- ② リーダー研修会の開催
- ③ 地区訓練・地区研修会の開催（センコー流の定着）
- ④ 業務経験 1～3 年未満の従業員を対象に

した研修会の開催

- ⑤ 荷主・協力会社との研修会の開催
- ⑥ 安全管理の徹底（ドライブレコーダー・安全運転成績表の活用）
- ⑦ 社会貢献活動の積極的な参加

(3) 効果

- 平成 29 年度危険運転による車両交通事故件数 0 件
- 平成 29 年度休業労働災害件数 0 件
- グループ全社技能コンテスト 4t、10t 部門ダブル優勝
- 全国トラックドライバーコンテスト シニア部門優勝
- 近畿運輸局長表彰

(4) 今後の課題

- ① 若年者による車両事故・労働災害の削減
- ② 従業員の高齢化に対する管理体制の整備強化
- ③ 本質改善に向けた環境整備と効果検証に基づく先進技術の積極的導入
- ④ 各種安全管理システムの連携強化と事故災害の未然防止

**その他の取組**

近年、健康起因による車両事故が増加しております。幸いにも当社において、これに該当する事故は起きていませんが、センコーグループでは従業員の健康増進を経営の重要課題として、次のような取組を実施しております。

- (1) 看護職による心身の健康サポート
- (2) SAS（睡眠時無呼吸症候群）スクリーニング検査の実施
- (3) 日常における運動の習慣化、健康づくりを目的とした『健やか活動』の推進

**おわりに**

センコーグループ全従業員は、『人間尊重』と『すべてに優先する安全』の精神のもと、『安全ゼロ災職場の確保』を実現するために、法令や安全ルールを遵守し、ステークホルダーの皆さまに信頼されるよう従業員が一丸となって取り組みます。

◎センコー様のご厚意により、次の URL から事例発表資料をご覧いただけます。ご参照ください。

[http://rikusai.or.jp/public/katsudo/zenkokutai/R1\\_55th/55th\\_jirei-happyou.pdf](http://rikusai.or.jp/public/katsudo/zenkokutai/55th/55th_jirei-happyou.pdf)